

## 基本計画審議会における検討状況について

### 1. 主旨

令和4年12月8日（木）に開催した第4回基本計画審議会における検討状況について、報告する。

### 2. 内容

（1）第4回基本計画審議会における検討状況

※内容の詳細については別紙のとおり

### 3. 今後のスケジュール（予定）

令和5年	1月16日	第5回基本計画審議会
	2月～	基本計画審議会（第6回～）
		企画総務常任委員会報告（審議会検討状況）
	3月	基本計画審議会（答申）
	5月	5 常任委員会報告（基本計画（骨子案））
	6月	区民意見募集
	9月	5 常任委員会報告（基本計画（素案））
		パブリックコメント
令和6年	2月	5 常任委員会報告（基本計画（案））

} 審議会を各月に開催し、  
検討状況を適宜報告する。

## 第4回基本計画審議会における検討状況

---

令和4年12月19日  
政策経営部政策企画課

## 第4回基本計画審議会における検討状況

### 【概要】

令和4年12月8日（木）に第4回基本計画審議会を開催したため、審議会における検討状況について、報告する。

### 【審議会の検討状況の公開】

会議の資料は当日の17時頃、録画映像は概ね1週間後（5開庁日後）、議事録は概ね2週間後（10開庁日後）に、それぞれ区ホームページで公開する。

※第4回基本計画審議会の録画映像は12月15日（木）に公開済み。議事録は12月22日（木）に公開予定。

### 【第4回基本計画審議会】

#### <日時>

・令和4年12月8日（木） 18時30分～20時51分

#### <会場>

・第一庁舎5階 庁議室

#### <議題>

1. 意見交換（コンセプト（計画全体を貫く基本的な考え方））
2. 意見交換（基本方針（目指すべき将来像））
3. 意見交換（将来像の実現に向け分野横断的に重点的に取り組むべき課題）
4. 意見交換（計画推進にあたって重視すべき考え方など）
5. その他



## 第4回基本計画審議会における検討状況

### 【出席者】

	出席者
委員	江原委員（オンライン）、大杉委員、鈴木委員、汐見委員、中村委員、長山委員（オンライン）、森田委員、涌井委員、安藤委員、尾中委員、佐伯委員、羽毛田委員（オンライン）
区	保坂区長、中村副区長、岩本副区長、松村副区長、松村技監（オンライン）、加賀谷政策経営部長、舟波地域行政部長（オンライン）、片桐生活文化政策部長（オンライン）、田中保健福祉政策部長（オンライン）、畝目都市整備政策部長（オンライン）、秋山政策企画課長、高井経営改革・官民連携担当課長（オンライン）、箕田政策研究・調査課長、真鍋政策経営部副参事（計画担当）

### 【議事概要】

議題	概要
1 意見交換 (コンセプト、基本方針、重点的に取り組むべき課題、計画推進にあたって重視すべき考え方など)	これまでの審議会での議論を踏まえ、コンセプト、基本方針、将来像の実現に向け分野横断的に重点的に取り組むべき課題及び計画推進にあたって重視すべき考え方などについて、各委員から出された意見の整理案を示し、項目ごとに意見交換を行った。
2 その他	事務局より、第5回基本計画審議会における会議時間の延長及びテーマ別意見交換の実施を提案し、委員から承諾を得た。

基本計画大綱に盛り込む内容		キーワード・必要な視点
<p>計画策定にあたって重視すべき視点</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●最上位の計画でしか描けない内容とする。</li> <li>●社会状況の変化を踏まえた計画とする。</li> <li>●世田谷区のみならず、他自治体との関連性や生態系への影響など、インクルーシブな視点、幅広い視点を持った計画とする。</li> <li>●計画上にない事態が生じた際にも役立つ指針となる内容を盛り込む。</li> <li>●分野や領域を超えた施策の相互関連性の視点を意識した計画とする。</li> </ul>
<p>計画策定にあたって取り入れるべき考え方・手法</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●バックキャストिंगの考え方</li> <li>●評価指標の設定の工夫</li> <li>●EBPMの推進</li> <li>●子ども・若者の意見の反映</li> </ul>
<p>コンセプト (計画全体を貫く基本的な考え方)</p>	<p><b>コンセプト（計画全体を貫く基本的な考え）（案）</b></p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●区民の生命を守る</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもを中心に据えた施策の組み立て</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●参加と協働により住民主体で誰もが主人公</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害と環境を意識したライフスタイルの定着</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域や地区の特性や課題を踏まえた施策展開</li> </ul>		

基本計画大綱に盛り込む内容	目指すべき将来像（案）	キーワード・必要な視点
<p style="text-align: center;">基本方針 (目指すべき将来像)</p>	◆子どもどまんなか社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども・若者施策の充実</li> <li>●子どもどまんなか社会</li> <li>●質の高い学校教育</li> <li>●新たな学校運営</li> </ul>
	◆誰一人取り残さない社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多様性の尊重</li> <li>●苦しい人へ手を差し伸べられる社会</li> <li>●経済上の格差・貧困問題への対応</li> <li>●分野の狭間にある課題・複合的な問題への対応</li> <li>●高齢者や障害者などが地域で暮らし続けるための支援</li> <li>●誰一人取り残すことのない支援</li> <li>●安全・安心に暮らせるまち</li> </ul>
	◆心が豊かになる社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生涯を通じた学び</li> <li>●地域課題の解決の担い手の創出・地域人材の育成</li> <li>●ウェルビーイングな社会・心が豊かになる社会</li> <li>●分野横断的なまちづくり</li> <li>●地域が人を育てる力</li> <li>●高齢者が社会に参加、活動しやすい地域づくり</li> <li>●コミュニティの醸成</li> </ul>
	◆自然環境と調和した持続可能な社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●次世代への資源の継承</li> <li>●自然との共生</li> <li>●豊かな自然環境の維持・保全【区民検討会議】</li> </ul>
	◆全国をリードする区政運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>●他自治体をリードする取組み・世田谷モデル</li> <li>●多様な働き方の実現</li> <li>●楽しめる場所</li> <li>●移動の円滑化</li> <li>●にぎわいのあるまち【区民検討会議】</li> </ul>

基本計画大綱に盛り込む内容	重点的に取り組むべき課題（案）	キーワード・必要な視点
将来像の実現に向け分野横断的に重点的に取り組むべき課題	■子ども・若者の健やかな成長のための環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども・若者の参加や意見表明</li> <li>●権利侵害への救済</li> <li>●若者の社会進出支援</li> <li>●若年女性への支援</li> <li>●子どもが生まれ・育ちやすい環境の整備</li> </ul>
	■新たな学校教育と生涯を通じた学びの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新たな学校教育</li> <li>●一人ひとりの多様な個性・能力を伸ばす</li> <li>●課題解決に向けた参加型の学校運営</li> <li>●リカレント教育や学び直しへの対応</li> </ul>
	■多様性の尊重と地域で安心して住み続けられるための支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多様性の尊重</li> <li>●外国人への支援</li> <li>●家族、ライフスタイルの多様化への対応</li> <li>●人権問題への対応</li> <li>●貧困問題への対応</li> <li>●分野の狭間にある課題・複合的な問題への対応</li> <li>●高齢者や障害者などが地域で暮らし続けるための支援</li> <li>●災害への備え【区民検討会議】</li> <li>●危機管理の取組みの強化【区民検討会議】</li> </ul>
	■誰もが活動しやすいまちづくりと地域力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ウェルビーイングな社会</li> <li>●分野横断的なまちづくり</li> <li>●地域力の向上</li> <li>●地域課題解決の担い手の創出・人材の育成</li> <li>●高齢者が社会に参加、活動しやすい地域づくり</li> <li>●地区特性を踏まえたコミュニティの醸成</li> <li>●住民同士のつながりの強化【区民検討会議】</li> <li>●文化・芸術の振興・継承【区民検討会議】</li> </ul>
	■脱炭素化の取組みとみどりの保全・創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自然ストックの有効活用</li> <li>●次世代への資源の継承</li> <li>●自然との共生</li> <li>●豊かな自然環境の維持・保全【区民検討会議】</li> </ul>
	■新たな魅力の創出と世田谷ブランドの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新たな魅力の創出</li> <li>●移動の円滑化</li> <li>●他自治体をリードする取組み・世田谷モデル</li> <li>●起業支援</li> <li>●多様な働き方の実現</li> <li>●にぎわいの創出【区民検討会議】</li> <li>●ブランド力の向上【区民検討会議】</li> </ul>

基本計画大綱に盛り込む内容	キーワード・必要な視点
計画推進にあたって 重視すべき考え方など	● D X
	● 情報発信
	● 参加と協働
	● 人材育成
	● S D G s
	● 働き方改革

【世田谷区議会企画総務常任委員会（12月1日）で出された意見<第4回基本計画審議会へ報告した内容>】

No.	意見
1	<p>町会・自治会の充実といったことがあまり議論されていないように感じる。これまで世田谷区では、町会・自治会のリーダーとなる方が地域をまとめ、いろんな意見をバランスよく取り上げた中で判断し、地域をまとめてきている。新しいことを取り入れることも非常に大事だが、地域のリーダーを育てる環境が足りなくなっていることも事実であり、区民の町会・自治会に対する価値観が薄れてきていることが一番の原因だと考える。いくら新しい意見を取り入れていったとしても、地域でそれを判断する、バランスよく判断できる人がいなければ、バラバラになってしまうばかりになる。町会・自治会、さらに商店街など、地域をまとめるリーダーを育てていく環境が必要。そういった意見があまりいないようなので、ぜひ取り上げて議論してほしい。</p>
2	<p>「子どもどまんか」と「リカレント教育」という言葉が出てきているが、これまでも地域では子どもを一番大切に思ってきたし、いかに地域で子どもの豊かな心を育てていくかという取り組みをしてきたと思う。また、リカレント教育も、自分たちが育ってきたことを踏まえながら、大人になった時に後世にいろんなことを教えていくために、自分が学ぶということを行っている。「子どもどまんか」や「リカレント教育」については、既に地域では行ってきているということ伝えてほしい。</p>
3	<p>「一番苦しい人」という文言があるが、一番苦しい人の定義とはそもそも何なのであろうか。生活に困窮している方もいれば、精神的に苦しんでいる方もおり、苦しいということに関する考え方は多面的で多角的だと思う。何ををもって一番苦しいと言うのか。行政側が考えている苦しさと、一般の区民の皆さんが考えている苦しさが違うこともある。区として考える、また、審議会として考える「一番苦しい人」とはどのような人なのかということをはっきりと定義してほしい。</p>
4	<p>世田谷区全体の世帯構成を念頭に、行政の施策を展開することが必要である。区内全50万世帯のうち、一人暮らし世帯は53%、夫婦のみ世帯が17%、全体で70%はこのような世帯構成になっており、こうした状況を踏まえることが、今後の世田谷区の行政運営にとって大変重要なことである。審議会の議論の中には、そういった世帯構成であったり、一人暮らしの方が多であったりとかいうようなことに関しての文言がちょっと見当たらない。今まで行政の考え方として、日本的な考え方だと思うが、世帯主義、どうも個人よりも世帯を重視した政策というのが多いが、憲法では基本的人権ということで個人を尊重するというようになっており、こうした考え方を取り入れていく必要がある。</p>
5	<p>国は、孤独や孤立に対する対策に向け、対策室を設けたり担当大臣を設けたりしており、それに呼応した世田谷としての政策を実現してほしいと考えている。世帯構成の変化等に伴って、区民のライフスタイル、特に孤独や孤立ということに対する行政としての対策が大変重要になってくると思うので、審議会の中でも議論を深めていただきたい。</p>
6	<p>委員から出された意見を見ると、多くの方がそうだよねと感じる意見が並んでいて、逆に言うと、何か議論がわかるような意見だとか、何か侃々諤々この中で健全な摩擦をしながら意見が出てくるといような、そういう雰囲気を感じられない。様々な立場の方、様々な背景を持っている方を選んで、多様性のある意見が出るように配慮されている審議会だと思うので、多様な意見が出るような舵取りをしていただきたい。</p>

No.	意見
7	これまでに審議会が出された意見を見ると、どこでも通用するような、他の自治体に持っていっても通用するようなものであるというふうに見える。世田谷らしさ、世田谷の強み、世田谷の魅力をどういうふうに考えて、それをどう伸ばしていくのかという視点が、基本計画にはぜひあってほしいと思う。その点に関し、ぜひご議論いただきたい。また、これまで世田谷区が培ってきたもの、地域の中にあるものをしっかりと踏まえ、重みのある、厚みのある計画づくりを進めていただきたい。
8	基本計画を本当に区民、区議会、行政に役立つものとするためには、もう少し表現の仕方や見せ方を工夫し、新しい見せ方をしていくことも必要だと思っており、その辺の工夫についてもご検討いただきたい。
9	審議会の議論では、参加と協働という言葉が非常に多いが、町会・自治会に加入することが参加と協働につながると考えている。参加と協働と、町会・自治会への加入については大きな関連があると思うので、ぜひこの点をご議論いただきたい。
10	区民には様々な方がおり、「子どもどまんなか社会」と言ってしまうと、高齢者はどうなるの、障害のある人はどうなるのというように、言葉自体が独り歩きする可能性もあり、もっと慎重に取り扱う必要がある。もちろん社会的な問題の解決のためには少子高齢化ということも前提に政策を展開していく必要があるが、実際の住民の中でそういった政策に関わる人がどれくらいいるのかということも考えながら、政策全体のバランスを考えないと、住民の行政や区政に対する関心そのものが下がってしまうと思う。様々な方がいる中で、どれかを中心にこれをやるんですと言ってしまうと、関係のない人は関係ないよと思ってしまうと思う。多くの区民の皆さんが、自分のことをやってくれているんだなと思えるような基本計画にすることが大事なことであり、言い方ひとつで随分取り方も違ってくるので、その辺はしっかり検討していただきたい。

# 【この間の各委員から出された意見の整理案に対し第4回審議会では出された主な意見】

コンセプト（計画全体を貫く基本的な考え方）	
議論の整理案	委員から出された意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 区民の生命を守る</li> <li>● 子どもを中心に据えた施策の組み立て</li> <li>● 参加と協働により住民主体で誰もが主人公</li> <li>● 災害と環境を意識したライフスタイルの定着</li> <li>● 地域や地区の特性や課題を踏まえた施策展開</li> </ul>	<p>◆「区民の生命を守る」というところに、本当に子どもや若者たちが生き抜ける社会をつくるという決意をきちんと入れるべき。自分らしく生きて命が守られるということは最低限で、しかし、やっぱり最大限の価値だろうと思う。【森田委員】</p>
	<p>◆「子どもを中心」とするのか、「子ども・若者」とするのかについて、少し考えた方がよい。世田谷を担ってもらう人たちをどう支えていくのか、そして未来にどうつなぐかという議論が非常に重要であり、「子ども・若者」とするかについて、少し議論の余地がある。【森田委員】</p>
	<p>◆「災害と環境を意識したライフスタイルの定着」、「地域や地区の特性や課題を踏まえた施策展開」を図るには、自主的なコミュニティをどう形成するかが不可欠だと思う。これまでの公共という公と共が一体化している状況の中から、自立的に自らの地域を自分たちが自主的に参加しながら共を外出ししていくような状況をつくる必要があり、地域に即したコミュニティ形成をどう支援していくかが、実は本質的に参加と協働を支えていくと考える。コミュニティの形成を支えるサポートシステムみたいなものをきちんと明示するとよい。【涌井委員】</p>
	<p>◆「参加と協働により住民主体で誰もが主人公」について、誰もが主人公というのはハードルが高い。誰もが主人公であり、誰もがサポーターであるという表現が区民全員に届けるべきメッセージとしてはよいと思う。【羽毛田委員】</p>
	<p>◆「子どもを中心に据えた施策の組立て」について、子どもの施策だけ特に重点的にやり、ほかのセグメントに対して薄くなってしまいうという誤ったメッセージに受け取られかねない。各年代層への区政への参加の確保、サービス提供といった、漏らすことがない施策を進めていくということをぜひコンセプトに入れるべき。【安藤委員】</p>
	<p>◆子どもは、子どもだけで元気になれるということはありません、上の世代が元気に生きていることを見ていろいろなことを感じたり学んだりする。区民の生命を守るだけではなくて、区民が全て元気になる、そして、子どもが真ん中にいるだけではなくて多世代が上手に協働するといった内容がよい。【汐見委員】</p>
	<p>◆「区民の生命を守る」というのは、コンセプトとして間違っていないが、8年間の計画のコンセプトとして、違和感や物足りなさが残る。ウェルビーイングや健康などの視点も必要である。【中村委員】</p>
	<p>◆コンセプトに、多様性に関わる言葉を一言入れてほしい。例えば、「多様な区民が参加と協働により誰もが主人公になれる」など、多様性という言葉をもつ入れた方が、いろいろな方々が参加できるというイメージが広がる。【江原委員】</p>
	<p>◆「区民の生命を守る」というところに、瞬間的なものではなく継続的なもの、また、身体的なものだけではなくて、心と体、両面という意味合いを入れるべき。【鈴木委員】</p>
	<p>◆「災害と環境を意識したライフスタイルの定着」について、特に近年、災害や環境については、状況に応じて流動的にライフスタイルを変えていく必要があるという意味で、「定着」という文言が果たして正しいのか気になる。【尾中委員】</p>

議論の整理案	委員から出された意見
	◆女性に対する施策があまり見受けられないと感じており、若い女性への支援や仕事と子育ての両立への支援といった内容を強調できるとよい。【佐伯委員】
	◆将来像が5つあるのは率直に多いと感じており、せめて3つぐらいには絞りたいと思う。【羽毛田委員】
	◆「子どもどまんなか社会」について、日本にとどまらず、世界で活躍するような人材の育成、また人材育成のための環境整備といった視点を盛り込めるとよい。【羽毛田委員】
◆子どもどまんなか社会	◆基本方針に、外国につながる人々のことを盛り込むべき。日本人が世界に飛び出すとともに、日本には海外、外国につながる方々がたくさん入ってくるのには目に見えているので、その方々がいかに世田谷の社会に溶け込み、なおかつ主体として活動できるかという視点が重要である。【江原委員】
◆誰一人取り残さない社会	◆多様性の尊重を考える際には、本人への直接的な支援と本人が参加、活動するための環境整備の両方の視点が重要である。【江原委員】
◆心が豊かになる社会	◆「全国をリードする区政運営」について、結果としてこうなればよく、わざわざ明記するものではない。社会的大変容に即応できる区政の構造と運営といったようなことを明記すれば、おのずと全国に先駆けた区政運営につながるということになる。【涌井委員】
◆自然環境と調和した持続可能な社会	◆出された意見を整理する際の哲学がよく見えない。例えば、これから障害者とか外国の方とか、様々な人たちで1つの社会になっていくためにインクルーシブな社会をつくっていく、環境問題などを踏まえて世田谷バージョンで持続可能な社会をつくっていく、子どもだけではなく高齢者まで多世代が協働する社会をつくっていく、いろいろな差別がまだ残っている中で特にジェンダーギャップの解消を図っていくなどといったものが今後の区政の柱の一つとして考えられ、それぞれを理念化して考えるべき。また、「全国をリードする区政運営」についても、例えば、DXという時代にふさわしい新しい区政というものを創造していくなど、哲学的に考えるべき。基本方針については、例えば図にしたときに、この5本で大体新しいものがつくれるぞという図示ができないといけないと思う。【汐見委員】
◆全国をリードする区政運営	◆基本方針の柱の中に、楽しく魅力ある、人を惹きつける、住んでみたくなるようなまちづくりをするというものが入っているべきだと思う。【安藤委員】
	◆アクティブや積極的といったポジティブなまちづくりやコミュニティづくりをする、コミュニティづくりにみんなが積極的に関与するといったものが、1つの柱となるのではないか。その結果として、住んでみたくなるまちづくりにもつながると思う。【中村委員】
	◆新しい出会い、それは人でもあり場所でもあり、そういう新しい出会いがわくわくするようなまちというのが、そして、いろいろな人たちと出会ったり、暮らしたり、あるいは働いたりというようなことが多様にできるところが世田谷らしさだと思う。世田谷らしさとは何だろうというところを強調すると、わくわくするような出会いがいっぱいあるところだと思う。【森田委員】
	◆高齢期になっても新しい出会いの中でやり直しができ、子どもや若者たちがいろいろなチャレンジができるというような、わくわく感みたいなものを支えられるとよい。【森田委員】

議論の整理案	委員から出された意見
<p>■子ども・若者の健やかな成長のための環境の確保</p>	<p>◆地域に応じた活力あるまちをつくる、特徴あるまちをつくるといった視点をもう少し明確に盛り込むべき。【安藤委員】</p> <p>◆主体を区民個人、また、個人を超えて互いに支え合うコミュニティとして考えるといったように、レイヤーをわけて考えた方がよい。また、日常生活圏、中核圏、そして一体としての世田谷という三層構造のレイヤーを明確にしながら、これまでの議論を整理すべき。【涌井委員】</p>
<p>■新たな学校教育と生涯を通じた学びの充実</p>	<p>◆ワンヘルスという概念は非常に大事であり、こうした概念に基づき物事を連続的に考え整理し、そこから導き出される政策や施策などを包括する考え方が世田谷らしければ、住み続けたくなるまちになっていくのではないかと。【涌井委員】</p>
<p>■多様性の尊重と地域で安心して住み続けられるための支援</p>	<p>◆買物に出たい、孫と会いたい、何かを見たい、友達と会いたい、そういうものが個人の意欲を引き出す。意欲を引き出すようなコミュニティにしていけないと、元気な高齢者も生まれにくいし、介護予防だと言っても効果がない。【中村委員】</p>
<p>■誰もが活動しやすいまちづくりと地域力の向上</p>	<p>◆ワンヘルスの考え方はコンセプトぐらいのところに掲げてもいいような発想ではないかと思う。【大杉委員】</p> <p>◆ウェルビーイングをコンセプトにすれば、自ずとワンヘルスにつながる。【涌井委員】</p>
<p>■脱炭素化の取組みとみどりの保全・創出</p>	<p>◆障害概念や健康概念は変わってきており、心身の機能のみに着目するのではなく、その人が活動できるか、参加できるかということが大きな要素である。そういった意味で、出かける価値があるまちにしていこうということが基本になるのではないかと。【中村委員】</p>
<p>■新たな魅力の創出と世田谷ブランドの向上</p>	<p>◆現在の働き方というのが日本社会にゆがみを与えていると思うので、「多様な働き方の実現」というのは、実はすごくいろいろなところに関わっているのではないかと思う。【江原委員】</p> <p>◆世田谷は新しくビジネスを創出する場としても魅力的にすべきではないかというふうに思っており、どこかにそうした観点をいれられるとよい。世田谷らしさとは何かというと、世田谷には90万人、多様なニーズがあって多様な地域の課題があるので、それだけビジネスチャンスが多様にあるということである。新しいものを創造するような人を育んだり、クリエイティブな人材が外から世田谷に来られるような、そういう魅力を創出するという視点を強調すべき。【長山委員】</p> <p>◆「子ども・若者の健やかな成長のための環境の確保」と「多様性の尊重と地域で安心して住み続けられるための支援」は、つながったことだという気がしており、1つのカテゴリーでくくれないか。【汐見委員】</p> <p>◆「新たな学校教育と生涯を通じた学びの充実」とあるが、子どもたちは実際学校にだんだん行かなくなっており、その子たちの学びの場をどこに保障するかは大きなテーマである。不登校の子どもたちの支援ということを実際に考えていけると、大きな社会的な損失になっていくと思う。【汐見委員】</p> <p>◆社会の変化がこれだけ激しくなると、1回勉強したことで一生やっていくことができなくなり、絶えず学び続ける必要がある。乳幼児期から高齢者までの学びを持続的に保障していくような工夫ができないか。【汐見委員】</p> <p>◆マクロな視点とミクロな視点が混在しているため、カテゴリーをもう1つ大枠として設けてもいいのではないかと。【尾中委員】</p>

議論の整理案	委員から出された意見
<p>■子ども・若者の健やかな成長のための環境の確保</p>	<p>◆地域力の向上というのは、誰一人取り残さない、みんなで生き残っていくための動きというか手段だと思う。また、子どもどまんなか社会の実現に向けても、地域力の向上は重要である。【羽毛田委員】</p> <p>◆課題解決を図るためのモデルとして、二子玉川や下北沢、三軒茶屋などの具体的な場を例示し、議論するといった進め方も必要ではないか。市民が世田谷らしさを感じ、世田谷に住んでみたいと思うのは、下北沢に行ったり二子玉川に行ったりして、世田谷ってすごいよなという感覚を持っているからだと思う。そういうムーブメントをちゃんと大事にしていかなないと、世田谷全体のクオリティは上がっていかない。【涌井委員】</p> <p>◆地域や地区の特性を踏まえたまちづくりを深めていくと、同じ区内に住みながらも他地区の取組みへの理解や関心が低くなってしまいう可能性もあるため、地域の特性を高めていくとともに、そこをつなぎ世田谷としての一体性を保つような考え方や取組みも明確にしておくべき。【安藤委員】</p>
<p>■新たな学校教育と生涯を通じた学びの充実</p>	<p>◆ほとんどの子どもたちは、一日の時間の半分を学校で費やしており、保育園などでは、半分以上の時間を費やしている。そのため、大半の時間を費やす施設の中でどのようなウェルビーイングを実現するかということを考えていく必要がある、学校の改革など、何か新しいものを組み込んでいくことが世田谷の新しい姿を見せることにつながる。【鈴木委員】</p>
<p>■多様性の尊重と地域で安心して住み続けられるための支援</p>	<p>◆医療モデルから社会モデルへ、そして、社会モデルの一步先を目指すべき。その中で、意欲の醸成、新しい出会いをつくるというわくわく感、いろいろなことを自分で選べる選択がキーワードになると思う。【鈴木委員】</p>
<p>■誰もが活動しやすいまちづくりと地域力の向上</p>	<p>◆今、ものすごく断絶というか、孤立がすごく強くて、街と街、地域と地域、家庭と家庭が孤立しており、コミュニケーションや関係性の回復が必要である。赤ちゃんから高齢者まで、ずっとみんながわいわい語り合っていく、あるいは関わり合っていくというようなことの中で、健康度の高い暮らし方を得られるとよい。【森田委員】</p>
<p>■脱炭素化の取組みとみどりの保全・創出</p>	<p>◆ベーシックサービスをきちんと守っていくことは重要であり、ベーシックなサービスをきちんと確保するというのが、一番経済的に苦しい層の人に行き届くことではないかと思う。絶対に世田谷区は一定水準を落とさないという気持ちでやっていただく。これはお金もかかるし、新規政策として取り上げられることはないと思うが、守るべきこととして守ってほしい。【中村委員】</p>
<p>■新たな魅力の創出と世田谷ブランドの向上</p>	<p>◆ベーシックサービスは、貧困対策として位置づけるものではない。区民であれば誰でも受けられるということが、非常に屈辱感なくみんなが受けられるということにもつながる。【中村委員】</p> <p>◆ダイバーシティというのはトレランスである。施策が重なったりすることなどを当然だと思える弾力性をどれだけ行政の構造の中に持てるかが、一番大きなポイントだと思う。【涌井委員】</p> <p>◆こども食堂には、地域のいろいろなおじいちゃん、おばあちゃんたちが来ている。何か孤独感、孤立感を感じている人たちが、ここに来ると、自分も役に立てるという場を無数につくっていかなければいけない。子どもの減少に伴い不要となる保育園などの施設を活用し、新しい縁づくりのための取組みを進める必要があるのではないか。【汐見委員】</p>
	<p>◆社会資本を単なる一目的の社会資本にしないで、可変的な社会資本にするということはずごく大事なことである。総点検していけば、せっかくの税金で投資した公共施設というものが、多重の機能を持ったものになっていく。【涌井委員】</p>

議論の整理案	委員から出された意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>●DX</li> <li>●情報発信</li> <li>●参加と協働</li> <li>●人材育成</li> <li>●SDGs</li> <li>●働き方改革</li> </ul>	<p>◆日常生活圏域、地区、より広域な地域、区全体といった階層性を意識して計画推進にあたっていくべき。【中村委員】</p>
	<p>◆日常生活圏、中核圏、そして一体としての世田谷という三層構造のレイヤーを明確にしながら、これまでの議論を整理すべき。【涌井委員（再掲）】</p>
	<p>◆区民に現在計画がどのような進捗状況にあるのかということが伝わるような評価の視点が必要になってくるのではないかと。また、ある程度きちんとしたチェック体制についても考えておくべきではないかと。【大杉委員】</p>
	<p>◆区職員が日頃から自らの業務を振り返り、よりその精度を高めていけるよう、調査研究をきちんとできるような体制づくり、また、人材育成が必要である。【大杉委員】</p>
	<p>◆多様なつながりが区内外でしっかりと出来上がっていく、そうしたつながりを持てること自体が世田谷の魅力であり、連携という視点は重要である。【大杉委員】</p>
	<p>◆計画に掲げる政策の時間計画が必要であり、8年間の中でどう進めるのか、優先順位を含めて整理をする必要がある。【江原委員】</p>
	<p>◆情報発信の前提は、区民の共有財産である文書なり情報が確実に残され、保存されて、それが開示され、ちゃんと利用されていくことであり、情報発信や情報保存、情報の復元について、しっかりと盛り込むべき。【鈴木委員】</p>
	<p>◆「現場主義」や「ボトムアップ」のようなキーワードを入れる必要がある。今後DXにより行政サービスの効率化が図れるようになった際に、より大事になるのは地域住民のきめ細やかな情報収集であり、現地、現場で企画立案をしてもらうという方がよいのではないかと。まちづくりセンターに、福祉やまちづくり支援だけでなく、産業も含めた専門性の高い部門も配置し、現場が企画立案してけるとよい。【長山委員】</p> <p>◆区の個々の政策、予算措置、事業を決定するにあたっては、提案セクションは所管のミッション達成への効果のみの明示だけでなく、SDGs及びLWC指標に対し与える影響を予測評価し、その評価を参酌して政策決定するなど、縦割りを排し、複眼思考のシナジー効果を発揮させるべき。【小林委員】</p>

## 第4回基本計画審議会における検討状況

### 【第5回基本計画審議会におけるテーマ別意見交換の実施】

これまで審議会の議論の中で示された今後の重要課題等について、より掘り下げた議論を行い、今後の「基本計画大綱（たたき台）」に反映させるため、第5回基本計画審議会において、会議時間を延長し、2～3のテーマ別で意見交換を行う。

開催時間：（変更前）18時30分～20時30分⇒（変更後）18時～21時

会場：世田谷区立教育総合センター2階 研修室2・3

テーマ：第4回基本計画審議会での議論も踏まえ、重点課題のうち、これまでの議論の中で特に課題認識が多かった内容などを組み合わせ、2～3つのテーマを設定する。

### 【第5回以降の基本計画審議会スケジュール】

回	審議会開催予定日	開催時間	主な審議内容（予定）
第5回	令和5年 1月16日（月）	18時～21時	・ テーマ別意見交換
第6回	令和5年 2月 6日（月）	18時30分～ 20時30分	・ 基本計画大綱（たたき台）について
第7回	令和5年 3月14日（火）	18時30分～ 20時30分	・ 基本計画大綱（案）について
第8回	令和5年 3月29日（水）	18時30分～ 20時30分	・ 基本計画大綱答申

# 次期基本計画検討スケジュール（案）



